

## パセリ〔晩秋播き春夏穫り〕のカルテック施肥例

(直播き・トンネル栽培)

(10アール当り)

時期	方法	資材
地力作り	なるべく早い時期に全面に投入して耕します  (播種までに1か月以上おくこと)	<b>ラクトバチルス</b> 600グラム … 排水・通気よく、保肥力のある土に <b>堆厩肥</b> 2トン <b>硫安</b> 100kg (チツソ成分:20kg) ※栽培期間が長いので、 <b>必ず堆厩肥をしっかり投入すること。</b> ※このチツソは菌に摂り込まれて地力化し、 <b>播種時には必ずEC:0.1~0.2程度に落ち着いていること。</b> ※通常、被覆または緩効性のチツソ肥料を使うことになっていますが、それよりも微生物で地力化する方が確実です。 ※このチツソ等は元肥にかわるものです。通常、元肥の20%程はウネ(ベッド)中央に溝施用することになっていますが、全て全面散布して下さい。 ※ <b>必ず深さ30cmまで土壌pHを測定し</b> 、pH:6.0以下だった場合はこの時に <b>畑のカルシウム</b> も併用してください。
ウネ作り時	ウネ(ベッド)を作り、カルシウムを散布して、ポリ・マルチ(有孔・黒色)を被覆します	<b>畑のカルシウム</b> 100kg ※ <b>土壌pH:6.0~6.5</b> 、これを翌夏まで維持する事。 (栽培中に決してpH:5.5以下にはならないように注意) ※パセリは地中海原産で、 <u>多量のカルシウムを要求する野菜</u> です。もしカルシウムが不足だと、軟腐や芯腐れが多発します。 連作や線虫などの土壤病害対策は濃縮酵素液で行う。
(10~11月) 播種時	播種後の灌水時	<b>濃縮酵素液</b> 1000倍液 灌水…発芽を揃え、直根を深く伸ばす ※酵素で、 <b>揃いにくい発芽を10日位(15日以内)に揃えます。</b>
発芽揃い時	(播種後10日頃)	<b>カルテックCa液状</b> 1000倍液 灌水… <u>過剰に展葉させないで越冬</u> ※ <b>11月中下旬のトンネル掛けまで</b> 本葉1~2枚に抑えるためにチツソを効かせずCaを効かせます。本葉3枚以上に生長した後に10℃以下の低温に2か月以上あうと、花芽分化(抽臺)を起します。寒冷地では遅植えを励行し苗を大きくしない。温暖地では不織布ベタ掛け等で気温5℃以上を保つ。
(3~4月) 間引き時	間引き後に葉上に散布	<b>濃縮酵素液</b> 500倍 散布…残した株の発根、生長を促進 ※特に本葉4~5時の間引き(2回目)で、1穴1本に <b>株決め</b> の後。
(4月) 側芽摘み後	本葉10枚頃	側芽摘み、下葉かき後、 <b>カルテックCa液状</b> 500倍 散布 …株を充実させ、ウドンコ防止。(この前後、トンネル除去)
<5月上旬~8月頃> 収穫中	本葉12枚以降右記を順に繰返し	7~10日間隔で3~4枚ずつ収穫し、収穫直後、 <b>濃縮酵素液</b> 500倍 散布… <b>根から強く展葉促進</b> (根腐れ、根枯れ、青枯れ、疫病、未展開葉の枯れ込み、炭ソの対策) その5日後、 <b>カルテックCa液状</b> 500倍 散布… <b>葉に重み、香りを増す</b> (ウドンコ、軟腐の対策も)
<6月下旬~> 追肥	半月ごと(3回)	<b>硫安</b> 40kg <b>畑のカルシウム</b> 40kg ウネ間(通路)に散布して、灌水します。原則として同量を同時に。

(温暖地で 秋まで収穫の場合、また保温により翌春まで収穫の場合は、特に土のpHと根に注意。)  
(高冷地の冬蒔き夏穫り栽培も、元肥と間引き後の施肥を 上表に準じます。)